

新春文芸

入選作品発表

市中央公民館が募集した「新春文芸」にたくさんご応募いただきありがとうございました。
審査の結果、次の作品が入選となりました。
(入選者などの敬称は省略させていただき、作品には振り仮名をつけました。すべての応募作品を載せた作品一覧表は各地区公民館にあります。また、市ホームページでもご覧いただけます)

●問い合わせ 中央公民館 ☎53-2446

短歌

「新春雑詠」

阿部昌彦・選

特選

暮れ内に磨き上げたる大やかんまず湯を沸かす元旦あさの厨くに

鈴木 正子

【選評】 具体的な描写、「まず」に集約されるかいがいしさが目に浮かぶ。

佳作

百年の梁より下がる塩引きは背に初日受けきらりと光る

萩原 智子

【選評】 「きらり」に上等な塩引きが、百年の梁によりふさわしい光沢を放つ。

生かされし八十余年をいとおしむ初東雲はつしのめはやがて明ける

坂井 キヨ

【選評】 人生への感謝、結句に敬虔な思いで初日を待つ作者が浮かんで来る。

舞い初めの舞台の上を滑るがに師の白足袋の眩くらしかりけり

佐藤 壯子

【選評】 師の所作の「眩しさ」に新春の清々しさが漂っている。

新年は我が人生の九十七回くじゅうななかいちしち畏み除夜の鐘の音きく

増村 マキ

【選評】 ご高齢の作歌に感服。「畏み」に人生の重みが自然に入っている。

俳句

「新春雑詠」

齋藤謙歩・選

特選

くれなゐに染まる航跡恵方道

佐藤 さき子

【選評】あかね色の空と海。勢いよく進む船の航跡、その行手は恵方だ。

佳作

掌てに受けし六花融とけゆく生命線

板垣 刃雄

【選評】舞い落ちる雪の一片を掌てに受ける。生命線に沿って消える。長寿の証あかしか。

新婚の受胎を告げし御慶受く

大滝 甲子郎

【選評】新年早々の嬉しくおめでたい話。周囲も明るくなる。

人口の一人としての雑煮かな

工藤 チトミ

【選評】世は人口減少。わが身を大切に。

参段に上りし名札弓始

加藤 修

【選評】三段に昇段。一層精進しよう。

川柳

「新春雑詠」

川村雄一・選

特選

酒びたし世界遺産と噛みしめる

菅原 誠二

【選評】和食が無形文化遺産になると言う。村上の鮭びたしも十分文化遺産の値打ちありと噛みしめる。

佳作

ご存命元あむし気な証年賀状

本間 勝喜

【選評】年に一度の年賀状を頂いた。お元気を確認した証の便り。

四人の子巢立とつて妻と屠蘇との膳げん

松浦 昭一

【選評】毎年にぎやかに過ごして来たお正月も子等が巢立とつて今年は二人だけ。嬉しさの中に一抹の寂しさがただよ。

おもてなし今年もはずむお年玉

渡辺 則子

【選評】流行語の「おもてなし」を使ってお年玉をやり取りする祖母と孫たちの楽しい様子が浮かんで来る。

正月の我が家の和食ほし☆五つ

花井 玲子

【選評】ネットやスーパーで買ったお正月のご馳走もおふくろの味の前では脱帽せざるを得ないであろう。